



●Tackle Guide
 クロムツに使うフラッシュャーサビキは、市販の仕掛けは合わないこと多いので、聡丸のオリジナル仕掛けがおススメ。また、通常はオモリ150号を使用するが、潮が極端に速いときは200号を使うので、こちらも用意しておこう。

南房は根魚天国
 船がゆっくりと灘寄りのポイントに向かう間に、クロムツ釣りで交じったサバを各自

ようやく釣れたのは開始から10分が過ぎてのこと。左ミヨシ3番の長沢さんが25センチのクロムツを釣り上げると、直後に釣友の米光さんが30センチのクロムツを抜き上げた。右舷ではトモ3番の川瀬さんが26センチを釣り上げ、続いて米光さんが「重い、重い」と言いながら巻き上げ開始。海面に浮いたのはクロムツ2尾と大きなサバが1尾、この渋い中で大健闘だ。



▲クロムツは指示ダナの範囲をしっかりと探ってアタリが出るタナを見つけよう
 ▼水深50メートル付近でオニカサゴが上がった

悪役面3魚種と私が勝手に名付けているのはヒラメにタチウオ、クロムツ(ムツ)。共通しているのは鋭い歯がむき出しになっているので、見た目が強面に見えてしまうからだ。

でも、食味は3種とも絶品。とくにムツは「脂っぽい」むつつこい」がその名の由来とも言われており、上品な脂が乗ったやわらかい身は、定番の刺身や煮つけのほか、カルパッチョや炙りなどもオススメだ。

クロムツは通常300メートル以上の深場に生息しているの、釣るとなると道具も大掛かりになるのだが、暗くなる浅場にエサを求めて集まってくる。その習性を生かし、手軽なタックルでクロムツを釣らせてくれるのが今回取材

した南房太海港の聡丸だ。聡丸では暗いうちにクロムツを釣らせて、明るくなったからシーズンに合わせた別のターゲットを狙うリレー釣りで出船している。

現在のリレーのターゲットはキントキなどの根魚となっているが、状況によってスルメイカやオニカサゴ、タチウオやアマダイなど色いろなので、予約の際は確認をしていただきたい。

出船は午前2時40分と早い、その分沖揚がりも8時半となっている。曇りが厳しいこの時期、涼しいうちに帰宅できるのありがたい。

ムツは暗いうちが勝負
 受付を済ませて船に向かうと、松下聡船長がお客さんの座席を指定しており、私は



▼南房は浅場で釣れるカサゴもデカイ
 勢いはさらに続いて長沢さんや右トモ2番山田さんも2キロ弱のイシナギを釣り上げて気を吐けば、右舷の間の松目さんがマハタを釣り上げるといった根魚パラダイスに突入。

がさばいてエサの切り身を作る。大きさは幅1センチ、長さ10センチほどが目安だ。また、船長によるとカタクチイワシが特エサとのこと、ほとんどの人が持参していた。20分ほど到着したポイントは水深50メートルほど、根魚五目用の仕掛けにオモリ60号をセットして再スタート。指示ダナは底から15メートルまでの範囲。やはり南西風によるウネりで底荒れしているらしく、右トモの小川さんがキントキを1尾釣ったものの後が続かない。

「浅場のカサゴに行きます。潮が収まったらまた戻ってきますから」と20分ほどで船長は見切りをつけ、水深9〜15メートルの浅場のポイントに移動。

ここではさっそく良型のカサゴが各所で釣れ上がり、松尾さんが30センチ級のアカハタを上げると、左ミヨシの明

石さんも35センチと続く。浅場で順調に釣れたのち、7時を過ぎたところで先ほどの50メートル付近に戻って再トライ。

キントキは食い渋ったままだが、その代わりに底物の魚たちの活性が上がってきた。カサゴやムシガレイにホウボウなどが釣れ始め、三村さんに激しく竿をたたくアタリがきて巻き上げ開始。

これはキントキかとカメラを構えていると、海面に浮き上がったのは黄色い魚体。なんと45センチもあるアオハタであった。

間を置かず長沢さんにも派手なアタリがきてアオハタ連発かと思ったら、こちらは1キロ弱のオニカサゴ。

さらに松尾さんが、これまでにない強い引きの魚と一進一退の攻防を開始。慎重に巻き上げ、船長のタモに収まったのは3.5キロのイシナギだった。

●船宿information
 南房太海港
聡丸
 ☎04-7092-0505
 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=クロムツ&根魚五目乗合 一人1万1000円(水付き)
 ▶備考=予約乗合。2時半集合、集まり次第出船

松下 聡船長

▼今やアカハタは根魚五目の定番
 しかし、ここで残念ながらタイムアップ。当日は南西風による水温低下と底荒れの洗礼を受けてしまい、本命のクロムツとキントキは厳しい結果となってしまったものの、船長によれば反応はバッチリ出ているとのこと。潮具合が変われば釣況も上向くことだらう。



▼今やアカハタは根魚五目の定番



ポインントの太海沖に20分ほどで到着すると、「水深90メートル。反応は底から15メートルまで出ているので、10メートルまでリサーチしてください」との船長のアナウンスで仕掛けが投入された。

すぐさま各所でガタガタとアタリがきてクロムツが釣れ上がるのがいつものパターンなのだが、当日はそうはいかなかった。

前日まで当地の難敵「南西風」が吹き荒れ、そのために底潮が冷えてしまったのが影響したのだろう、クロムツの反応はあるものの食い気がないのだ。

左トモ3番を告げられた。準備が整ったところで2時45分に12名を乗せて出船。目下の釣況はトップでクロムツが15尾前後、根魚五目はキントキが10尾前後にカサゴなどの根魚が数尾交じるといった好調さが続いていたが、当日は思わぬ難敵に悩まされる結果となってしまった。

航行中に船長からクロムツ釣りについてのアドバイスがマイクで伝えられる。

フラッシュャー仕掛けにはエサを付けないこと。投入の際にはサミングをすること。根

知得! 船長のおすすめペンチ
 Tips and Tricks
 魚にハリを飲み込まれると外すのに難儀する。とくにクロムツなど鋭い歯を持つ魚だとケガをする危険も。そこで松下船長が推奨しているアイテムが、写真のように長くてガッチリとしたペンチ。これならノド奥に掛かったハリも安全かつ簡単に外せる。

▶歯が鋭い魚もペンチでハリを外せば安全

●すずき よしかず/コロナワクチンを接種しました。肩が痛くてたまらなかつたのですが、湿布を貼ったらすごく楽になりました。参考までに。